



第124期(2020年3月期) 定時株主総会

2020年6月25日
グンゼ株式会社

第124期定時株主総会

議 事 次 第 （開始時刻：午後1時）

<報告事項>

1. 第124期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
事業報告、連結計算書類及び計算書類の内容報告の件
2. 会計監査人及び監査役会の
第124期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
連結計算書類監査結果報告の件

<決議事項>

- 第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役8名選任の件



■ 第124期定時株主総会

「報告事項」

事業報告

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

I. 事業の経過及びその成果

I-1. 第124期（2019年度）連結業績

連結業績

（単位：億円 単位未満切捨て）

	第124期 (2019年度)	第123期 (2018年度)	対前期		利益率(%)	
			増減額	増減率 (%)	第124期 (2019年度)	第123期 (2018年度)
売上高	1,403	1,407	△3	△0.3	—	—
営業利益	67	66	0	0.8	4.8	4.8
経常利益	68	71	△2	△4.0	4.9	5.1
親会社株主に 帰属する 当期純利益	43	40	3	7.3	3.1	2.9



Ⅱ．事業セグメント別の概況

お手許の招集ご通知15頁から16頁をご参照

Ⅱ-1. <機能ソリューション事業>

売上高 : 563億円 (前期比 5.9%増)
営業利益 : 61億円 (前期比 0.6%減)

■ プラスチック



ベトナム新工場

■ エンジニアリングプラスチックス



江南新工場

■ 電子部品



静電容量タッチパネル
PCAP

■ メディカル



創傷被覆材
PELNAC®
(ペルナック)

Ⅱ-2. <機能ソリューション事業 1>

■ プラスチック

**ナイロンフィルムは堅調に推移
 OPPフィルムや多層シートは市況の影響を受け苦戦**

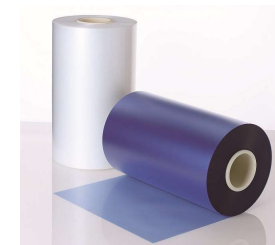
	概況
シュリンクフィルム	薄膜化、ハイブリッドタイプ等環境ニーズ商品は順調も冷夏、暖冬等の影響により飲料向けが低調
ナイロンフィルム	冷凍・チルド向け耐ピンタイプが好調 新型コロナウイルス関連では内食向け需要の増加によりピザ、ウインナー、レトルト向けが増加
OPPフィルム	工場野菜向けは暖冬による露地野菜の安価継続影響を受け苦戦
多層シート	半導体市場の落ち込み影響を受ける
グローバル	ハイブリッドフィルムの認知度向上により順調



■ シュリンクフィルム



■ ナイロンフィルム



■ 軟質多層シート

Ⅱ-3. <機能ソリューション事業 2>

■ エンジニアリング プラスチックス

半導体市場向け及び産業機器向けは苦戦
 OA向け製品が引き続き堅調に推移

	概況
OA向け	中国、新興国向けのプリンター部品が牽引
非OA向け	半導体市場向け成型品が苦戦



■ OA向け機能部品
 (シート・シームレスベルト)



■ 半導体製造用フィルター資材



■ フッ素樹脂小口径収縮チューブ

Ⅱ-4. <機能ソリューション事業3>

■ 電子部品 中国内販は堅調に推移もフィルム販売が減少

	概況
機能フィルム	米中貿易摩擦による電子機器・産機メーカーの新規開発遅れの影響を受ける
タッチパネル	中国内販向けは順調に推移したが、出荷調整の影響を受ける
その他	受託加工は量産化に向けた加工が増加



■ 機能フィルム (高耐光 I T O)



■ 静電スイッチ



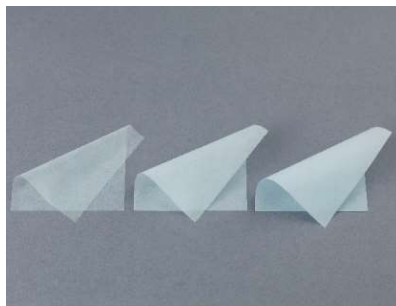
■ スパッタシステム

Ⅱ-5. <機能ソリューション事業4>

■ メディカル

**(株)メディカルユアンドエイの子会社化により増収
 米国向け縫合補強材の減少と治験費用等の増加影響を受ける**

	概況
縫合補強材	国内は新たな診療科での浸透により堅調 中国は市場拡大により伸長したが、北米向けの減少をカバーできず
骨接合材	国内で新規競合参入の影響を受け苦戦
人工皮膚	国内の新製品ペルナックGプラスによる新規顧客獲得、 及び中国市場拡大により伸長
(株)メディカルユアンドエイ	医療用レーザーならびにグンゼ製品の骨接合材及び人工硬膜 の販売が堅調



■ 縫合補強材
 (ネオベールナノ)



■ 骨接合材
 (グランドフィックス)



■ 人工皮膚
 (ペルナックGプラス)

II-6. <アパレル事業>

売上高 : 694億円 (前期比 4.3%減)
営業利益 : 27億円 (前期比 9.4%増)

■ インナーウェア



BODY WILD 「AIRZ」
(ボディワイルド エアーズ)

■ レッグウェア



SABRINA 「Acti-Fit」
(サブリーナ アクティブフィット)

Ⅱ-7・8. <アパレル事業 1 >

消費増税、自然災害、暖冬、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け苦戦
BODYWILD「AIRZ」などの差異化商品やカットオフ等の主力商品は堅調に推移
商品開発力強化により収益性が向上

インナー	メンズ	BODYWILD	「AIRZ」新アイテムのトップス、新商品「3D-boxer」が好調 ECチャネルは大幅伸長
		YG	「CUTOFF」、「In.T」等の差異化商品を中心に好調
	レディス	KIREILABO	補整力を高めた「カップ付インナー」、「ブラファンデ」が好調
		Tuché	「ナイトブラ」、ワイヤレスブラ「sweetmakeブラ」等の新商品が好調 EC、SPA等成長販路での伸長が貢献
レッグ	タイツ・ パンスト	SABRINA 等	着圧タイプ等高機能商品は堅調も、全体では気温変動影響や 新型コロナウイルス影響イベント自粛による着用機会減少により低迷
	レギンス	Tuché	レギパンの新規販路拡大

II-8. <アパレル事業2>



■ BODYWILD AIRZ
(ボディワイルド エアーズ)



■ YG In.T
(YG インティ)



■ KIREILABO
BRA-FOUNDATION
(キレイラボ
ブラファンデ)



■ SABRINA Acti-Fit
(サブリナ アクティフィット)



■ Tuché
(トゥシェ)

II-9. <ライフクリエイイト事業>

売上高 : 149億円 (前期比 2.2%減)
営業利益 : 11億円 (前期比 4.4%減)

■ 不動産関連



SUPER CENTER PLANT 出雲店
(島根県出雲市)

■ スポーツクラブ



明舞店が入居するビエラ明舞
(兵庫県神戸市)

II-10. <ライフクリエイイト事業 1>

不動産関連 ショッピングセンター事業は消費増税や新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けたが、地域密着した取り組みや賃貸事業の新規物件が貢献

		概況
ショッピングセンター事業	つかしん	生活関連や食品、サービス関連好調により堅調に推移
	エルミこうのす	人気テナント誘致により堅調に推移
	前橋リカ	テナント売上不振により苦戦
不動産賃貸事業	商業施設	新規施設(島根県出雲市、京都府綾部市)影響により増収
	賃貸住宅	新規物件(東京都杉並区、愛知県江南市)影響により増収



■ ショッピングセンター「エルミこうのす」
 (埼玉県鴻巣市)



■ 賃貸物件「あやベグランプルー」
 (京都府綾部市)



■ 賃貸物件「ラヴィエール永福町」
 (東京都杉並区)

Ⅱ-11. <ライフクリエイイト事業2>

■ スポーツクラブ

会員数の減少に歯止めがかかったものの、
新型コロナウイルス感染拡大による影響を大きく受ける

概況

入会促進キャンペーンにより会員数の減少に歯止め
吹田健都店はハイブリッド化(ジム24時間利用)を11月よりスタートし会員数が増加
新型コロナウイルスの影響を受け3月は一部施設・サービスを制限



■ 吹田健都店が入居するビエラ岸辺健都
(大阪府吹田市)



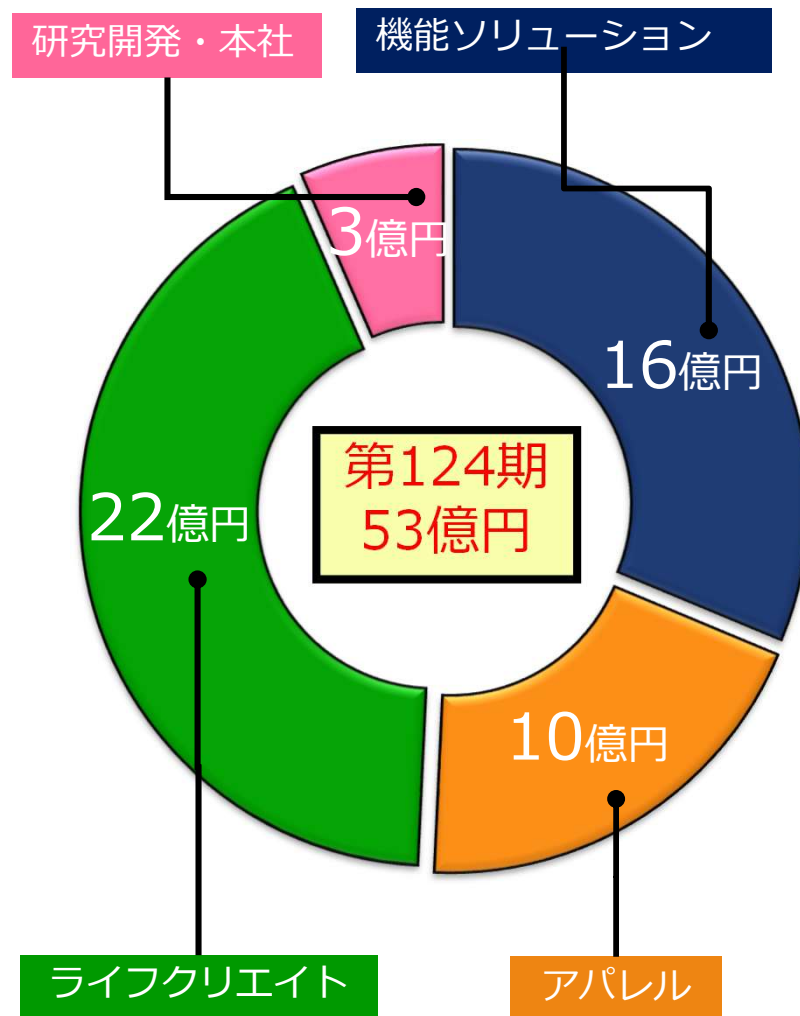
■ 吹田建都店24時間ジムエリア

Ⅱ-12. 第124期（2019年度）セグメント別の業績

（単位：億円 単位未満切捨て）

	売上高				営業利益			
	第124期 (2019 年度)	第123期 (2018 年度)	増減額	増減率 (%)	第124期 (2019 年度)	第123期 (2018 年度)	増減額	増減率 (%)
機能 ソリューション	563	532	31	5.9	61	61	△0	△0.6
アパレル	694	726	△31	△4.3	27	25	2	9.4
ライフ クリエイト	149	152	△3	△2.2	11	12	△0	△4.4
全社・消去	△4	△4	△0	-	△33	△32	△0	-
合計	1,403	1,407	△3	△0.3	67	66	0	0.8

Ⅱ-13. 設備投資の状況



機能ソリューション事業 (16億円)

- プラスチックフィルム生産設備増強 他

アパレル事業 (10億円)

- インナーウェア生産設備増強 他

ライフクリエイト事業 (22億円)

- 商業施設整備
- 賃貸住宅新築等 他

研究開発・本社部門 (3億円)



Ⅲ. 計算書類（連結）

〔
貸借対照表
損益計算書
キャッシュ・フロー計算書
〕

お手許の招集ご通知**32頁から34頁**をご参照

Ⅲ-1. 貸借対照表（資産の部）

（単位：億円 単位未満切捨て）

科目	第124期 (2019年度)	第123期 (2018年度)	増減
流動資産	743	730	13
固定資産	922	966	△43
有形固定資産	679	664	14
無形固定資産	17	21	△3
投資その他の資産	225	279	△54
資産合計	1,666	1,696	△29

流動資産

743億円	（前期比 13億円増加）	
棚卸資産	前期比	18億円
現金及び預金	前期比	11億円
受取手形及び売掛金	前期比	△22億円

有形固定資産

679億円	（前期比 14億円増加）	
建設仮勘定（有形）	前期比	43億円
建物及び構築物（純額）	前期比	△14億円
土地	前期比	△7億円

投資その他の資産

225億円	（前期比 54億円減少）	
投資有価証券	前期比	△35億円
出資金	前期比	△20億円

Ⅲ-2. 貸借対照表（負債の部、純資産の部）

（単位：億円 単位未満切捨て）

科目		第124期 (2019年度)	第123期 (2018年度)	増減
負債の部	流動負債	342	366	△24
	固定負債	232	218	13
	負債合計	574	585	△10
純資産の部	資本金	260	260	-
	資本剰余金	67	67	△0
	利益剰余金	843	820	23
	自己株式	△67	△52	△14
	その他の包括利益累計額合計	△28	△0	△27
純資産合計		1,091	1,110	△19
負債及び純資産合計		1,666	1,696	△29

負債合計

574億円（前期比 10億円減少）

未払法人税等	前期比	△6億円
コマーシャルペーパーを含む借入金	前期比	△10億円
長期預り敷金保証金	前期比	4億円

純資産合計

1,091億円（前期比 19億円減少）

親会社株主に帰属する当期純利益	43億円
配当金の支払(123期)	△19億円
自己株式の取得等	△19億円
その他有価証券評価差額金の減少	△28億円

Ⅲ-3. 損益計算書

(単位：億円 単位未満切捨て)

	第124期 (2019年度)	第123期 (2018年度)	増減
売上高	1,403	1,407	△3
売上総利益	427	408	18
販管費	360	342	18
営業利益	67	66	0
営業外損益	1	4	△3
経常利益	68	71	△2
特別損益	△9	△8	△1
税引前当期純利益	58	62	△3
法人税等	13	20	△6
非支配株主に 帰属する 当期純損益	1	1	△0
親会社株主に帰属 する当期純利益	43	40	3

営業外損益

1億円 (前期比 3億円減益)
 <当期の主な内訳>

受取配当金	5億円
支払利息	△2億円
操業準備費用	△1億円

<前期の主な内訳>

受取配当金	4億円
為替差益	1億円
支払利息	△2億円

特別損益

△9億円 (前期比 1億円減益)
 <当期の主な内訳>

固定資産処分損益	4億円
減損損失	△8億円
工場移転費用	△3億円

<前期の主な内訳>

関係会社株式売却損	△4億円
関係会社株式評価損	△2億円

Ⅲ-4. キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円 単位未満切捨て)

	第124期 (2019年度)	第123期 (2018年度)	増減
営業活動	136	114	21
投資活動	△82	△73	△8
FCF	54	41	13
財務活動	△48	△54	5

■ 主な営業CF

税金等調整前当期純利益	58
減価償却費	63
売上債権の減少 (△は増加)	33
法人税等の支払額	△21

■ 主な投資CF

固定資産の取得	△95
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	△10
固定資産の売却	21

■ 主な財務CF

配当金の支払	△19
自己株式の取得	△14
借入金の減少	△11

Ⅲ-5. 主要財務・経営指標(連結)

	単位	第124期 (2019年度)	第123期 (2018年度)	増減
ROA：総資産営業利益率	%	4.0	3.9	0.1
ROE：自己資本利益率	%	4.0	3.7	0.3
総資産	億円	1,666	1,696	△29
自己資本	億円	1,075	1,095	△19
自己資本比率	%	64.6	64.6	△0.0
有利子負債額	億円	250	262	△12
BPS：1株当たり純資産	円	6,061	6,059	2

ROA : 営業利益 ÷ 総資産

ROE : 当期純利益 ÷ 自己資本



IV. 計算書類（単体）

〔 貸借対照表・損益計算書 〕

お手許の招集ご通知35頁から36頁をご参照



V. 中長期的なグループの 経営戦略と対処すべき課題

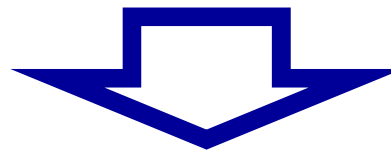
お手許の招集ご通知17頁から20頁をご参照

V-1. 中期経営計画「CAN 20」期間延長について

第1フェーズ			第2フェーズ				
2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年

延長

2020年度（本年）
新型コロナウイルス影響を最小減とする取り組みを優先



中期経営計画を2021年度まで延長

V-2. 「CAN20」第2フェーズ 基本戦略と経営目標

3つの基本戦略



2021年度グループ経営目標

(単位：億円)

売上高	1,500
営業利益	80
親会社株主に帰属する 当期純利益	56

ROE (自己資本利益率)	5%以上
------------------	------

V-3. 「CAN20」第2フェーズ 資本コスト経営の取り組み

重点指標

ROE（自己資本利益率）

5%以上



組織のバインド力（結束力）を高め、
全構成員が一丸となり目標達成を目指す

V-4-1. 「CAN20」第2フェーズ 対処すべき課題 1 - 1

1. セグメント別戦略課題

1. 機能ソリューション事業

プラスチック	海洋プラスチック問題や食品ロスの削減に寄与する環境対応型新商品の開発、市場への投入
	(海外：ベトナム) 今期より稼働を開始した新工場の早期経営貢献
	(国内：守山) サーキュラーファクトリー（資源循環型工場）実現に向けたプロジェクト始動
エンジニアリング プラスチック	主力のOA向け製品に加え、産業機器向け製品の拡販
メディカル	昨年度子会社化した（株）メディカルユーアンドエイとの更なるシナジー（相乗効果）推進
	中国他海外市場での拡販、次期大型新商品の承認取得

V-4-2. 「CAN20」第2フェーズ 対処すべき課題 1 - 2

1. セグメント別戦略課題（続き）

2. アパレル事業

共通	E Cチャネルの商品訴求力強化	
インナー ウェア	消費者ニーズ（天然素材回帰、カジュアル化） に即した新素材・新商品の投入	YG BODYWILD
レッグ ウェア	消費者ニーズの変化に基づく市場対応力強化	
	若年層をターゲットにした新商品投入	SABRINA (サブリーナ)
	カジュアルトレンドに対応したフルリニューアル	Tuché (トゥシェ)

3. ライフクリエイイト事業

不動産	商業施設の収益力向上
	投資効率を重視した物件別管理の強化
スポーツクラブ	【新型コロナウイルス感染拡大対策への注力】 会員とスタッフの健康と安全を第一に考えた取り組み推進

V-4-3. 「CAN20」第2フェーズ 対処すべき課題 2 - 1

2. CSR重要課題

持続的な成長を図り、企業価値を高めるための SDGs・CSV経営を見据えた課題

- 1 QOLの向上への貢献（健康・福祉への貢献）
- 2 緑豊かな環境づくりと環境問題対応
- 3 職場環境改善・働き方改革
- 4 より良いコミュニティ・社会づくり

5 プラスチック資源循環戦略の推進

昨今の海洋プラスチック問題に対する国際的意識の高まり
使い捨てプラスチックに対する規制強化が加速

SDGs：持続可能な開発目標

2015年9月の国連サミットで採択された
2030年までに持続可能で
よりよい世界を目指す国際目標

CSV：共有価値の創造

社会課題を解決することによって、
社会価値と経済価値の両方を創造する
次世代の経営モデル

V-4-4. 「CAN20」第2フェーズ 対処すべき課題2-2

2. CSR重要課題（続き）

プラスチック資源循環基本方針

われわれは、プラスチックの**3R+Renewable**を積極的に推進し、
廃棄量を削減することで、プラスチック資源が循環する社会の実現に貢献する

- 1 プラスチックの減量化・再利用を推進する
- 2 分別・リサイクルし易い製品設計と再生原料の積極的使用により、
効果的・効率的なプラスチック資源循環に貢献する
- 3 植物由来原料による製品開発を行い、石油化学原料の使用量削減に貢献する
- 4 廃棄物の適切な管理と環境負荷を低減する生産活動により、つくる責任を果たす

CSV経営により社会的責任を果たす

3R+Renewable

3R	Reduce	リデュース	製品をつくる時に使う資源の量を少なくすること 廃棄物の発生を少なくすること
	Reuse	リユース	使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること
	Recycle	リサイクル	廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用すること
	Renewable	リニューアブル	再生利用

V-5. 今後の見通し

**新型コロナウイルス感染拡大が今後の業績に大きく影響を与える要素となっており、
 (現時点では) 業績予想の合理的な算定が困難**

2021年3月期の業績予想	現時点では未定 ↓ 業績予想の算定が可能になった時点で速やかに公表
2020年度の自己株式取得	当面見送り
2021年3月期の配当予想	現時点では未定 ↓ 通期業績予想の開示が可能になった段階で速やかに公表

グループ全構成員が一丸となって経営改善に取り込むことを取締役が率先して示す

役員報酬減額			
期間	対象		減額割合
2020年5月～9月	社外を除く取締役	代表取締役社長	30%
		その他取締役	20%



■ 第124期定時株主総会

「決議事項」

お手許の招集ご通知 **6頁から13頁**をご参照

■ 第1号議案 (招集ご通知 6 頁)

剰余金の処分の件

〈期末配当に関する事項〉

連結配当性向50%程度を目安に、中期的な業績見通しに基づき
安定的・継続的な利益還元を実施する方針のもと、
第124期の期末配当は下記の通りとさせていただきます。

(1) 配当財産の種類

金銭といたします。

(2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当社普通株式1株につき 金115円 総額2,042,504,305円

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2020年6月26日

■ 第2号議案 (招集ご通知 7～12頁)

取締役8名選任の件

【取締役候補者】

候補者番号	候補者氏名	候補者番号	候補者氏名
1	廣地 厚	5	木田 理恵
2	佐口 敏康	6	赤瀬 康宏
3	中井 洋恵	7	及川 克彦
4	鯨岡 修	8	熊田 誠

(注) 中井 洋恵、鯨岡 修 及び 木田 理恵の3氏は社外取締役の候補者です。